

意見交換会報告書

おかざき未来“夢”プロジェクト 高校生と市議会議員の意見交換会
～愛知県立岡崎西高等学校 編～

令和8年7月17日（金）
岡崎市議会広報委員会

意見交換会報告書

P1

「おかざき未来“夢”プロジェクト 高校生と市議会議員の意見交換会 ～愛知県立岡崎西高等学校 編～」

【目 次】

- P2～ 議会広報委員所感
- P4～ 高校生アンケート結果
- P10 記録写真

【概 要】

- 1 開催日 令和8年7月17日 金曜日
- 2 時間 14時00分から16時00分
- 3 場所 市議会議場・委員会室
- 4 参加者 愛知県立岡崎西高等学校 18名
岡崎市議会(議会広報委員会) 9名

【次 第】

市議会議場

- | | | |
|-------------|-------|--|
| 14:00～14:05 | 開会・挨拶 | 岡崎市議会
議長 荻野 秀範
愛知県立岡崎西高等学校
校長 井上 健二 |
| 14:05～14:10 | 市議会紹介 | 議会広報委員会
委員 本多 勝 |
| 14:10～14:15 | 学校紹介 | 愛知県立岡崎西高等学校 |

委員会室

- | | |
|-------------|--------------|
| 14:20～15:20 | 意見交換会 |
| 15:20～15:35 | (意見とりまとめタイム) |

市議会議場

- | | | |
|-------------|--------|----------------------|
| 15:40～15:50 | 生徒発表 | |
| 15:50～15:53 | 閉会・挨拶 | 議会広報委員会
委員長 鈴木 静男 |
| 15:55～ | 集合写真撮影 | |

【テーマ・参加者一覧】

A班：八丁味噌を使った美味しい料理（第1委員会室）

市議会議員：加藤 嘉哉（かとう よしや）、本多 勝（ほんだ しょう）
高校生 5名

B班：自動車と自転車と人との共存を目指した街づくり（第2委員会室）

市議会議員：三浦 康宏（みうら やすひろ）、加藤 史朗（かとう ふみあき）
高校生 5名

C班：コンパクトシティと2拠点都市計画について（第3委員会室）

市議会議員：大原 昌幸（おおはら まさゆき）、瀬戸 清太郎（せと せいたろう）
高校生 4名

D班：少子化に負けない岡崎へ（第4委員会室）

市議会議員：神谷 茂樹（かみや しげき）、山村 栄（やまむら さかえ）
高校生 4名

岡崎西高校との意見交換会では、校内コンテストを経て選定されたテーマを、市議会に提案してもらった。生徒は熱心に議論に臨まれ、議会での意見交換を持ち帰り、校内で更に検討を深めてもらえるとのことで、意義深い機会となった。私は、付箋を活用したワークショップでファシリテーターを務め、開会式では司会進行を担当した。生徒が緊張することなく、率直な意見を述べられるよう配慮した。一方、議論の時間は限られており、あと30分程度あれば、より良い提案へ昇華できたのではないかと感じている。正副委員長で協議し、休憩を省略して進行を前倒しすることで、約15分を確保した。今後とも高校生との交流を大切にし、有権者教育の一層の推進を着実に進めていく。

生徒たちが事前に「岡崎駅めっちゃ活性化」というプレゼン資料を作成してくれてきたことから、大変強い熱意を感じた。意見交換会では、生徒の一人ひとりがしっかりと自分の考えを発言することができ、物怖じすることなく堂々とした態度で臨んでいた。テーマであるコンパクトシティについても、生徒自身がメリットやデメリットを考えながら議論を進めることができていた。また、生徒たちは将来の夢や目標、どのような場所に住みたいかという現在の思いとコンパクトシティを関連付けて考えることができており、意見交換会終了後も生徒たちの心に残る内容になったのではないかと感じた。反省点としては、生徒たちの意見を聞くことを心掛けていたものの、私自身がつい話し過ぎないように抑えることが難しかった。また、本来は4名の生徒全員に順番に意見を聞きながら進める予定であったが、途中で議論を先に進めてしまうことがあった。更に、生徒たちが作成した「岡崎駅めっちゃ活性化」の内容、コンパクトシティ、そして二拠点間の都市計画という三つの視点をどのようにまとめて結論へ導くべきか、議員側が議論の方向性を誘導してよいのか悩みながら進行してしまっていたところがあった。

今回の意見交換会では、八丁味噌の認知度や若者向け商品の少なさという課題を整理した上で、韓国発祥のスイーツ「クロッチ」と組み合わせる提案がなされていた。八丁味噌の酸味やうま味、渋みを「甘じょっぱさ」と「大人のコク」として生かし、SNSでの拡散や海外への発信まで見据えた点は、高校生ならではの柔軟な発想であった。意見交換でも、それぞれが主体的に発言し、商品名や価格、販売場所、届けたい相手について意見を重ね、企画を具体化していった。発表用の台本づくりでは生成AIも活用し、限られた時間で内容を整理する姿が印象的であった。若い世代の感性や発想を、岡崎の新たな魅力発信に生かす意義を改めて感じた。

本意見交換会を通じて、高校生にとっては議員と同じチームで議論を行う中で、議員は特別な存在ではなくある意味で「近所の人」のような存在であることを体感してもらえたと感じた。更に、私のグループのテーマ「自転車と他の交通との共存」は、「通学」を始め高校生が当事者である課題であった。彼らが提案した若者の行動変容を促すアプローチや、現場感のある大胆な取り組みは大いに参考になり、日々の要望対応により考え方が固定化しがちな議員側にとっても良い刺激になるものと感じた。高校生は、今後長い期間、市民として本市で過ごすことが期待される層なので、高校生の生の声に触れ、高校生に刺さる政策を検討する機会として、このような意見交換会は有益であると考えている。

高校生との意見交換会では、若い世代ならではの柔軟な発想と岡崎市の未来を真剣に考える姿勢に大きな刺激を受けた。「少子化に負けない岡崎市」をテーマに、子育て世帯への支援や税制の工夫など、高校生ならではの視点から具体的に実現性を意識した提案が数多く出され、未来を担う世代のまちづくりへの関心の高さを実感した。一つ一つの意見には、「岡崎市をもっと住みやすく、魅力あるまちにしたい」という思いが込められており、私自身、多くの学びと気づきをいただいた。若い世代の率直な声を大切に受け止め、市民の声とともに今後の政策提案や、より良い岡崎市のまちづくりに生かしていきたいと思う。

東岡崎駅の再整備が進められている一方で、生徒は事前検討を通じて、自分たちの生活に身近な「R岡崎駅周辺」にも着目し、「まちの拠点」として誰もが快適に過ごせる居場所づくりを考えていたことが印象的であった。また、駅周辺で安心して過ごし交流できる環境づくりについて、ファストフード店やカラオケ店、ガチャガチャ自販機店舗など若者らしい率直な要望に加え、送迎車両の待機場所不足や周辺道路の渋滞、ポイ捨て対策、公共交通の利用促進まで幅広い視点から意見が出され、その柔軟な発想と感性に感銘を受けた。一方、限られた時間でより充実した議論とするためには、テーマごとに議論の到達点がある程度共有した上で進行する工夫も必要と感じた。今回出た貴重な意見は、費用対効果や他世代の利用状況も踏まえながら、今後の岡崎市のまちづくりに生かしていきたい。

テーマについて、「偽警察看板」という提案を持ってきてくれたが、その経緯を尋ねると一足飛びにその結論にだどり着いたようだったので、まずテーマを自分事として例を挙げて考えてもらい、そこから一人ひとり案を聞いていくと、それぞれが彼らの視点で「交通ルールを歌にする」「道路標示を立体的に見えるようにする」など、若い独自の視点による案が次々と出てきた。皆が終始楽しそうに積極的に話を広げてくれ、発表へのまとめもスムーズに進め、役割も全員で分担しリハーサルまで行い、最終チェックも行うなど、さすが選抜メンバーだと感心した。自身も2年目なので、時間配分や生徒への配慮など、昨年の経験が生かされ、発表の落ちも成功し、生徒たちとともに充実した時間を共有できた。

私のグループであったA班（八丁味噌を使った美味しい料理）では、メンバー全員が事前に色々調査し、商品名、PR方法、販売の仕方などが、次から次へとアイデアとして生まれ、それを発表用紙に手際よく、またデザイン性にも優れたイラストも交えて完成させる姿に圧倒された。感心したのは、メンバー全員が自分の意見・考えをしっかりとっていて、メンバーが出した意見に対して、まずはいいねと賛同し、更にもっとこうしたらよくない？と提案することで、よりいい物を考えようという前向きな姿勢であった。また、今回参加してくれた岡崎西高の生徒が、非常に楽しかったとの意見を聞き、意見交換会を実施して本当に良かったと実感した。来年以降も、様々な学校を対象に継続することを期待する。

高校生との意見交換会は今回で4校目となり、委員会としての準備や意見交換会のタイムスケジュールもブラッシュアップされてほぼ時間通りに進行ができ、意見交換会のスタイルが構築されてきていると感じた。岡崎西高の2年生全員での事前調査や資料作成による前向きな取り組み姿勢には頼もしさと感じた。意見交換会においても委員会メンバーの上手なファシリテイトにより活発な意見交換や目的である身近な市議会議員を感じて貰うことが達成できたと感じた。有意義な事業であるので、出来るだけ早く残り7高校との意見交換会を実施できる方法や、全議員が体験できるよう4常任委員会での主催担当を検討していったと感じた。

【参加者：岡崎西高等学校 生徒18名】

○アンケート期間 7/17 ~ 8/14

○アンケート方法 グーグルフォームで各自電子入力

1、意見交換

Q 1 . テーマ別の意見交換の感想

(複数の分類が含まれる場合、それぞれの分類に1人ずつカウント。よって延べ人数)

分 類	人数(延べ)	主な回答 (要約)
①学び・新たな視点・提案の深化	8人	・ 事前に考えてきた内容を議員との意見交換を通じて更に深め、自分たちだけでは思い付かなかった発想や新たな課題、実際の市政に即した視点を得ることができた。
②貴重・楽しい・有意義な体験	8人	・ 市議会議員と直接意見交換するという普段なかなかできない経験を通じて、楽しく有意義に学びながら、自分自身の成長にもつながる貴重な機会となった。
③議員の親しみやすさ・話しやすさ	7人	・ 議員がフレンドリーで親しみやすく、一緒に問題点を考えながら話を広げてくれたことで、思ったことを発言しやすい雰囲気だった。
④具体化の難しさ・課題	1人	・ 様々な意見が出る中で、それぞれの意見を更に具体化し、自分の考えとしてまとめて発言することの難しさを感じた。

【参加者の感想（一部抜粋）】

- 参加者からは、「楽しかった」「貴重な経験だった」といった感想に加え、議員との対話を通じて、事前に考えてきた提案を深め、自分たちにはなかった視点や新たな課題に気付くことができたとの回答が多く見られた。一方で、多様な意見を具体化していく難しさを感じたとの回答もあり、単なる意見発表にとどまらず、考えを深める機会になったことがうかがえる。

Q2. 自分の意見が発言できましたか？

回 答	人数
よく発言できた	7人
発言できた	10人
あまり発言できなかった※	1人

●「よく発言できた」「発言できた」を合わせると17人、全体の94.4%が自分の意見を一定程度発言できたと回答した。一方で、1人は「あまり発言できなかった」と回答しており、全員参加型の進行には引き続き配慮が必要である。

※多くの意見が出る中で、その場で考えを整理し、より具体的な意見として即時発言することが難しかったと推察。

Q3. 「発言できた」人数および「その理由」について

理由分類	人数	代表的な意見
話しやすい雰囲気・議員の人柄	10人	議員が優しく親しみやすく、笑顔で真摯に話を聞くなど、話しやすい雰囲気だったため発言しやすかった。
議員による働きかけ・進行の工夫	6人	議員が積極的に話題を振り、質問や話の広げ方、意見の取りまとめなどを行ってくれたため発言しやすかった。
本人の経験	1人	過去に生徒会活動で市議会を訪れた経験があったため、比較的発言しやすかった。
発言・思考の難しさ	1人	その場で考えを整理して発言することが難しく、十分に発言できなかった。

●発言しやすかった理由として、18人中16人が「話しやすい雰囲気・議員の人柄」または「議員による働きかけ・進行の工夫」を挙げており、議員側の関わりが参加者の発言を引き出す大きな要因となった。一方、「あまり発言できなかった」と回答した1人からは、その場で考えを整理して発言する難しさが挙げられており、今後も個々の参加者に応じた声掛けや進行の工夫が必要である。

Q4.新たな気づきや考え方などに変化はありましたか？

Q2.自分の意見の発言		Q4新たな気づき考え方の変化	
		「ある」	「ない」
よく発言できた	7人	6人	1人
発言できた	10人	6人	4人
あまり発言できなかった	1人	0人	1人

- 全体の66.7%が、新たな気づきや考え方の変化が「あった」と回答しており、議員や他の参加者との対話が、新たな視点や政策形成に関する現実的な考え方を得る機会につながったと考えられる。一方で、意見を整理しながら発言することに難しさを感じた回答も見られたことから、学びや気づきをより広げるためにも、考える時間の確保や発言を引き出す進行の工夫を継続していく必要がある。

Q5.「気づきや変化の理由」について（Q4「ある」回答者12人）

分 類	人数	主な回答（要約）
政策形成・実現性への気づき	4人	メリット・デメリットや予算、政策を考える際の思考過程、課題を洗い出して解決策を考えることなど、政策を具体化する際の視点を知ることができた。
施策の効果と副作用への気づき	2人	設備や対策は増やせばよいものではなく、設置することで逆に事故が増える場合もあるなど、施策には別の影響が生じることに気付いた。
新たな発想・多様な視点	4人	議員や他の参加者の意見、日常生活での経験などから、自分たちだけでは思い付かなかった新しいアイデアや考え方を得ることができた。
市政への関心・意見発信の大切さ	2人	自分の意見を出すことの大切さを感じ、市のことについても、これまで以上に知ろうと思うきっかけになった。

- 参加者は、議員や他の参加者との対話を通じて、新たな発想や多様な視点を得るとともに、予算やメリット・デメリット、施策による副作用など、政策を実現する際に必要となる現実的な視点にも気付くことができた。また、自分の意見を発信する大切さや、市政への関心につながったとの回答も見られた。

Q6.「意見交換会全体についての意見」について

★実回答者 7人、未記入 11人

分 類	回答者数
①楽しい・良い経験だった	3人
②継続・再参加希望	2人
③時間延長要望	1人
④特に意見なし	1人

●自由記述では、「楽しかった」「良い経験だった」「緊張したが話しやすかった」「今後も続けてほしい」など、意見交換会そのものを肯定的に捉える回答が多く見られた。議員と直接対話し、自分の意見を伝えたり、他者の考えに触れたりすることが、参加者にとって普段とは異なる学びの機会になったことがうかがえる。一方で、「もう少し話し合いの時間が欲しかった」との意見もあり、R8年度は意見交換60分、取りまとめ15分を確保しているものの、議論が深まるにつれて、更に意見を出し合いたいというニーズが生じた可能性も考えられる。今後は、単に時間を延長するだけでなく、導入・議論・取りまとめの時間配分や進行方法を工夫し、限られた時間の中でも参加者が十分に意見を出し、議論を深められる運営を検討していく必要がある。

2、岡崎市議会の情報発信

Q7.「岡崎市議会に関して閲覧したことのある公的情報」について ※複数回答

何らかの議会情報を閲覧した経験ある

11人（18人中）

情報源分類	回答者数	（参考）情報源の主な特徴
①市議会だより	5人	各戸配布等により目に触れやすく、ネット環境を問わず利用できる
②岡崎市議会ホームページ全般	4人	必要な情報をまとめて確認できるが、自ら検索・閲覧する必要がある
③新聞記事	4人	議会・市政の動きを第三者視点で知ることができるが、購読状況に左右される
④ケーブルテレビミクス議会中継	3人	実際の議会の様子を映像で確認できるが、視聴環境や時間の影響を受ける
⑤岡崎市議会会議録検索	1人	詳細な発言内容を確認できる一方、目的を持って検索する必要がある
⑥岡崎市議会YouTube	1人	スマートフォン等で閲覧しやすい一方、存在を知らなければ利用につながりにくい

●11人が何らかの媒体等で議会情報を閲覧した経験がある一方、7人は未選択であり、閲覧経験には差が見られた。また、閲覧媒体も「市議会だより」「公式ホームページ」「新聞記事」「ミクス議会中継」などに分散している。既存媒体を継続して活用するとともに、これまで議会情報に接する機会が少なかった層にも情報が届くよう、媒体ごとの役割や周知方法を検討する必要がある。

Q8「廃止したほうが良い情報発信」

現行の情報発信について、廃止すべきとする回答は見られなかった。ただし、これは現行媒体全てが十分に活用されていることを意味するものではなく、各媒体の役割や対象者を踏まえた継続的な検討が必要である。

Q9.「岡崎市議会が議会全体として取り組むべき情報発信」について

実回答者16人、未選択2人

※1人三つまで複数選択

情報発信項目	回答者数
Instagramでの発信	13人
ホームページの充実	6人
TikTokでの発信	5人
YouTubeの充実	5人
市議会だよりの充実	4人
公式LINEでの発信	4人
各界各層と意見交換会の実施	2人
テレビ放送・ラジオ中継充実	2人
Facebookの開設	1人

Q7 閲覧した公的情報との相関性

Q7の閲覧状況	人数	Q9で優先選択
何らかの議会情報を閲覧した経験あり	11人	8人 (72.7%)
Q7で該当媒体を未選択	7人	5人 (71.4%)

Q7既存媒体	閲覧者	※1	※2
市議会だより	5人	3人	5人
市議会公式HP	4人	2人	3人

※1 Q9で同媒体の「充実」を希望

※2 Q9でInstagram希望

●「Instagramでの発信」が13人と最も多く、今回の参加者においてSNSを活用した情報発信への期待が高いことがうかがえる。一方、「ホームページの充実」6人、「市議会だよりの充実」4人など、既存媒体の充実を求める回答も見られた。Q7との関係性は、既存の議会情報を閲覧した経験の有無にかかわらず約7割がInstagramでの発信を選択しており、既存媒体の利用者からもSNSへの期待が示されている。今後は、既存媒体からSNSへ単純に置き換えるのではなく、それぞれの特性を生かしながら、議会情報に接する機会を広げる発信方法を検討する必要がある。

Q10.「将来、投票しようと思いますか？」について

分類	回答者数
ぜひ投票したい	10人
できれば投票したい	6人
わからない	1人
投票しない	1人

●参加者の88.9%が将来の投票に肯定的な意向を示した一方、「わからない」「投票しない」とする回答も見られた。意見交換会を通じて市政や議会に関心を持つことと、実際に投票行動へつながることは必ずしも同一ではない。今回のアンケートでは投票意向の理由までは確認していないことから、今後は若い世代が政治参加をより身近に捉えられる情報発信や機会の在り方について検討する必要がある。

【前年度課題を踏まえた検証】

項 目	R7	R8	増減
アンケート回答者	19人	18人	▲1人
「発言できた」以上	17人 (89.5%)	17人 (94.4%)	+4.9pt
気付き・変化「ある」	10人 (52.6%)	12人 (66.7%)	+14.0pt

※参加校・回答者数等が異なるため、年度比較は傾向把握として掲載

- 「発言できた」以上は89.5%→94.4%、「気付きあり」は52.6%→66.7%となり、発言環境と対話を通じた学びには改善傾向が見られた。
- 情報発信ではInstagramが2年連続で最多となり、若年層からSNS発信を求める傾向が継続している。

アンケート結果のまとめ

- R8年度の意見交換会では、参加者18人中17人が「よく発言できた」又は「発言できた」と回答し、議員との対話の中で、参加者が自分の意見を発言しやすい雰囲気や一定程度形成されていた。
- 自由記述では、議員が話題を振る、質問する、話を広げる、意見を肯定的に受け止めるといった関わりが、発言しやすさにつながったことが確認できた。R7年度の反省事項であった「発言を引き出す工夫」は、R8年度において一定の改善傾向が見られた。
- 参加者の66.7%が新たな気付きや考え方の変化を感じており、特に予算、メリット・デメリット、政策形成の過程など、議員との意見交換だからこそ得られる現実的な視点が多く挙げられた。
- 情報発信については、Instagramを中心としたSNS活用への期待が高い一方、市議会だより、ホームページ、新聞記事、ミクス中継など既存媒体にも一定の接触が見られた。今後は、既存媒体の役割を維持しつつ、若年層に届きやすい発信手法や内容の工夫が必要である。
- 将来の投票意向については、88.9%が肯定的な回答をしており、意見交換会は若い世代が市政や議会を身近に感じる機会として意義がある。今後も、対面での意見交換と情報発信を組み合わせながら、若年層の市政参加意識を育む取り組みとして継続していく必要がある。

○挨拶 岡崎市議会 荻野議長



○挨拶 愛知県立岡崎西高等学校 井上校長



○市議会紹介 議会広報委員会（本多委員）



○学校紹介 愛知県立岡崎西高等学校



○意見交換会の様子（A班）



○意見交換会の様子（B班）



○意見交換会の様子（C班）



○意見交換会の様子（D班）



○生徒発表（A班）



○生徒発表（B班）



○生徒発表（C班）



○生徒発表（D班）



○閉会挨拶（議会広報委員会 鈴木静男委員長）



○講場の様子



○集合写真①



○集合写真②

